

## 第41回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

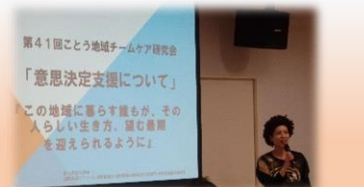
- ◆開催日時: 令和1年11月14日(木) 18:30~20:30 (会場:くすのきセンター)
- ◆担当団体: 湖東圏域4病院相談支援部門・訪問看護ステーション連絡協議会  
湖東健康福祉事務所・ACPプロジェクト会議メンバー
- ◆参加者: 106名 (医療職・医療機関55名、介護福祉職・福祉関係機関19名、行政・その他32名) 内新規21名



## ACPについて理解を深めましょう!

# 「意思決定支援について」

～ACP (アドバンス・ケア・プランニング) とは～



## 「ACP とは何か」

訪問看護ステーションすずらん 上川寿子さん

## アドバンス・ケア・プランニング (ACP) 定義

Advance care planning: ACP

(自らの意向が表明できなくなることに備えて)

**Advance:** 前もって

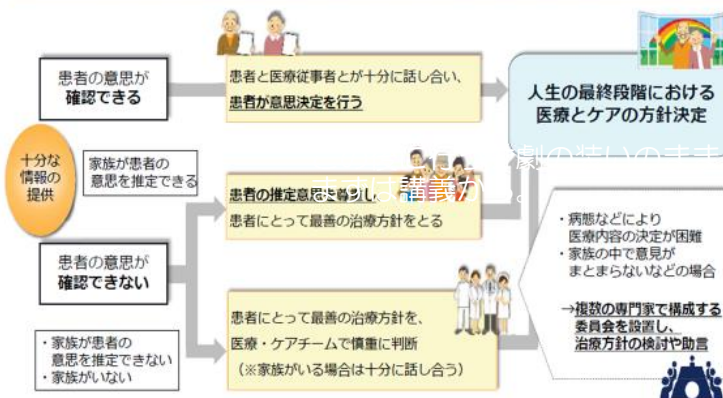
**Care:** 医療やケアについて

**Planning:** 計画すること

人生の最終段階の治療・療養について、(話し合いの時期は人生の最終段階に限ることなく) 患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス。

## 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」 方針決定の流れ (イメージ図)

人生の最終段階における医療およびケアについては、医師等の医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされ、それに基づいて患者が医療従事者と話し合いを行い、患者本人による決定を基本として進めることが最も重要な原則



## 「考えさせられる事例」

# 寸劇で学ぼう

## 「良かったと感じられる事例」



妻「先生、ご飯を食べないので点滴をしてやってください。きっとよくなると思います」  
 医師「本人はどう思っていますか」  
 妻「長生きしてほしいんです。本人もきっとそう思っています」



治る病気ならどんな治療も受けるけど、苦しみを先延ばしするだけの治療はしたくない。

医師「今後の過ごし方などについて一緒に考えていきませんか。今のお気持ちをお聞かせください」



妻「なにもしてあげられなかった・・・」



何度も話し合いをしていたこともあり、ご自身の望んだように自宅で最期を迎えることができました。

# グループ交流会

(一部のご意見をご紹介します)



## 1. 寸劇や日頃の体験から感じたこと

- ・話し合っておくことの大切さを知った。
- ・コミュニケーションはとても大事だと感じた。
- ・家族が「なんとかしてあげたい」という気持ちもわかるし、どう寄り添えばいいのかと考えさせられた。
- ・二つのケースを安易に比べられない。良いも悪いもないように思う。
- ・「どうしたいのか」を話すタイミングが難しい。どのタイミングで聞いてあげたらいいのか考えさせられた。
- ・本人と家族の意向の違いがある。家族間での話し合いは大事だと思った。
- ・退院までの準備が大切だと思った。入院中から、本人や家族の気持ちを聞き、退院後の家族への支援も必要だと思った。
- ・急激に病状が変化したり、認知症が進行し意思確認が難しい状況もあった。本人と家族の思いが違い、その対応にジレンマを感じることもある。
- ・元気な時から自身の意志を表示できているとよいと思った。

## 2. 意思決定支援のために、どんな内容をご本人やご家族から聞いたらいいか

- ・「してほしいこと」「してほしくないこと」を確認しておく。
- ・具体的な内容で選択肢を出していけるとよい。
- ・その人がどのような人生を歩まれてきたのかを知って、予後はどう生きるか一緒に考えていけるとよい。
- ・その人の人生観を知る。
- ・食べにくくなった時、どのようなものが食べたいか、どうしたいかを聞いておく。身近な事から聞いていくとよいのでは。

## 3. より良い最期を迎えるためにそれぞれの専門職はどんな時にどういうことができるのか

- ・どんな方法があるのかを提案していかないと選ぶこともできない。
- ・最後まで気持ちの揺れがある。共感しながら寄り添う。
- ・家族の意見がよく変わるとき、支援チームをまとめることは大変だが、そのような家族を見守り寄り添う。
- ・病院でできること、地域でできること、それぞれの力を生かして支援する。本人と家族をどうつなぐかということも専門職の役割
- ・病院と地域の切れ目のないサポート。様々なところでACPを実践できるとよい。
- ・院内でのACPの取組は始まっているが、看護師はMSWや訪問看護師、在宅医に比べて持っている情報が少ない。連携の意義がそこにあると思っている。
- ・告知のあとの患者、家族へのかかわりが重要だと思う。
- ・入退院支援、カンファレンスが重要。
- ・急変時の対応へのサポート。
- ・その人がどんな人だったのかをしっかりと聞くこと、その上でどう支援していったらいいのかイメージし関わる。また、ケアマネや他の職種といっしょに関わっていく。
- ・残された人が大切な人の死にどう向き合えるのか、グリーフケアが大事。

寸劇にご出演いただいた「ACPプロジェクト会議」メンバーの皆様、ありがとうございました。

これからも多職種連携力でよりよい意思決定支援を推進していきましょう！



ホームページで研究会の情報をご覧ください。  
検索「在宅医療福祉情報の森」

お知らせメールの登録をお願いします。

研究会の開催状況や次回のご案内をメールでお知らせします。

ご希望の方は、

「①お名前 ②ご所属 ③一言」をいれて下記にメール送信してください。

☆ことう地域チームケア研究会事務局  
(E-mail) [info@gen-ai-ken-kaigo.jp](mailto:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)

## 次回のお知らせ

日時：令和2年 1月16日(木) 18:30~20:30

会場：くすのきセンター1階

テーマ：「医療連携フォーラム 2019」

～地域で支える口腔医療の構築を目指して～

担当世話人団体：彦根歯科医師会・湖東圏域リハビリ職

共催：日本歯科薬品株式会社

\* 研究会は申込み不要です。当日会場へお越しください

\* 問い合わせ先：ことう地域チームケア研究会事務局

彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 (TEL 49-2455)

彦根市医療福祉推進課 (TEL 24-0828)

### 話題提供について

#### <医療ソーシャルワーカー>

- ◆終末期になってしまったら医師の聞き取りが難しくなる場合も多いと思う。普段の面談で患者さんが ACP について考えられるようなアプローチをしていきたい。

#### <介護支援専門員>

- ◆対称的な2事例の寸劇をみながら意思決定のタイミングなどについて考えることができた。
- ◆とてもタイムリーな事例でどんなことを聞けばよいか、聞くタイミングなど考えなくてはいけないことがたくさんあることが分かった。
- ◆2 事例とも分かり易くとても良かった。レッドカーペットを歩けるくらいです。寸劇も含め、大変分かり易く多職種、家族、それぞれの立場で考えることができたのではないかと思います。

#### <訪問看護師>

- ◆ACP について無知だったので少しでも学びたいと思いました。

#### <看護師>

- ◆病院内で ACP を行っていくことに不安が多く参加したが、寸劇がとても楽しく苦手なグループワークも皆さん積極的にとても楽しい研修会でした。ありがとうございました。
- ◆寸劇を通しての話題提供がとても分かり易く対照的な事例で意見交換にしっかりつなげることができたと思う。
- ◆病院でも ACP の導入を初めて数か月が経過しました。徐々にですが ACP が確認できる件数が増えています。
- ◆今後の推進にとっても参考になった。
- ◆寸劇でイメージすることができた。すごくよかったです。
- ◆とてもわかりやすい劇でした。今後も ACP について学んでいきたいです。
- ◆ACP のことがそれまでの歴史も含めてよく理解できた。
- ◆人生会議と言いますが日頃から話しておかないといけないとわかりました。
- ◆ACP について考えるいい機会になった。
- ◆ACP に関し寸劇を踏まえての話し合いだったので流れが良くわかりました。
- ◆病院でも ACP の取組は行われつつありますが、タイミングなどが難しく関わり方も課題である。参考になりました。
- ◆最近 ACP をよく聞くので理解が深まった。



#### <歯科医師>

- ◆普段考えない内容だったのでこの機会に自分の家族とも話したいと思った。

#### <歯科衛生士>

- ◆元気なうちにもっと気軽に話しておきたいと思った。

#### <医薬品卸>

- ◆具体的な事例を言葉ではなく劇で演じていたので誰もが理解しやすかった。現場の方々の役割の中で人の事、生命に関わることの難しさが聞けた。
- ◆劇でみて印象的で分かり易く伝わってきました。

#### <学生>

- ◆寸劇を踏まえることで ACP についての問題が見えやすいように感じた。



## グループワークについて

### <介護支援専門員>

- ◆日頃感じている死の場面のとらえ方も知ることができ、他の職種の方の思いが伝わった。
- ◆本人、家族の思いは変化があり、待つことも大切、寄り添う姿勢について再度考えさせていただきました。ありがとうございました。

### <訪問看護師>

- ◆奥の深い捉え方を発表の中で貴重な意見を聞けました。人工呼吸器をつけることはつらいと言い切れるか等考えさせられました。

### <看護師>

- ◆それぞれの立場で思っていることを情報交換できた。
- ◆職種や働く場の異なる方との話は新鮮で楽しかったです。
- ◆在宅と病院では患者や家族の思いは同一ではないことに気づいた。在宅での本人の思いを入院してからも尊重できるように連携していきたい。
- ◆地域や他施設での情報交換で現状を知ることができた。
- ◆多職種の人たちの意見や活躍を聞くことができた。
- ◆いろんな職種の方のいろいろな面からの意見が聞けて良かったです。
- ◆多職種の意見が聞けました。
- ◆もっと地域と連携が図れるようになりたい。
- ◆医師の意見はとても参考になった。他の部門の人からは病院への要望とかも言ってもらえてよかった。



### <歯科医師>

- ◆様々な職種の視点や熱量を感じられた。

### <歯科衛生士>

- ◆ご本人に寄り添うことも大事だが奥様の思いにももっとしっかり寄り添うことが大切だと思いました。

### <不明>

- ◆様々な職種、立場（勤務等）からの意見を聞くことができた。
- ◆職種によって違う視点の意見が聞けた。

